



飛騨清見「せせらぎ街道」

高山市中心街から白川村に向かう国道一五八号線は高山市清見町中心街で郡上市明宝に向かう県道三七号線に分かれます。清見町へは昨年高山市街地まで完成した中部縦貫自動車道で各地からのアク

セスがさらに便利になっています。この県道三七号線を通称「せせらぎ街道」と呼び、約三五キロメートル行つたところに、大原(おつぱら) 森林事務所が管轄する高山市清見町大原地区があります。

ここ大原地区はいまも豊かな自然が残っており、小学校跡を活用した「おつぱら自然体験センター」の裏側には個体数の多いことでは飛騨随一といわれる「カタクリ群生地」があります。カタクリは日本特有の植物と言われ、林の中の雪が解けたところに芽吹き前の落葉広葉樹林の林床に姿を見せ、ほかの植物が茂るころには姿を消すことから「早春植物」とか「春植物」などと呼ばれています。

ここ大原では四月下旬から五月上旬にかけて一斉に可憐な花を咲かせ、いつもは静かな大原地区も可憐に咲く花の姿に見入る多くの方で賑わいます。

大原地区には、一ツ梨国有林、マツ谷国有林及び大原国有林の三つの国有林があります。過去には直営生産が華やかにおこなわれていましたが、今は間伐作業など森林整備に取り組んでいる国有林です。一ツ梨国有林の下流に位置する楢谷には高山市の巨木にも選ばれたサワラ(幹周り一、二一五センチメートル、樹高二五メートル)などの巨樹が人知れず河畔に林立しており、豊かな自然を体感する隠れた穴場となっております。

また、大原地区を走る国道二五七号線沿いは春の新緑、秋の紅葉などとともに、

美しい川の流れなど素晴らしい渓谷美が多くの方を魅了し、平成八年には「せせらぎ渓谷県立自然公園」に指定されたほか、大原地区にある「道の駅 パスカル清見」のラベンダー園も観光のスポットとなっております。

大原地区が賑わう時期をもう一つ紹介します。それは清流馬瀬川で六月から始まる鮎の釣りシーズンです。馬瀬川のアユは全国的に有名ですが、その最上流部に位置する大原地区は知る人ぞ知るアユ太公望のメッカとなっており、シーズンには多くの釣り人で賑わいます。そして管内三つの国有林はこの清流馬瀬川の源となっております。

この馬瀬川は昨年九月に東京で開かれた「利き鮎会スぺシャルin TOKYO」で、全国で味に定評のある十七河川のアユの利き味が催され、なんと日本一の栄冠に輝きました。

この大会はお国(川?) 自慢の鮎が出品される中、審査員が塩焼きの味に舌鼓をうち、美アユ日本一を競うもので、審査員には漫画「釣りキチ三平」著者の矢口高雄さんら自他共に許すアユ好きがそろつての審査となっております。

「景色よし」、「味よし」、「自然よし」どうぞ日本一の味を楽しみに皆様「飛騨清見せせらぎ街道」へおいでください。

【アクセス】

◆中部縦貫自動車道高山西ICから高山

市街方面へ向い、途中の県道七三号線(主)「高山清見線」にて、郡上市方面へ車で約四〇分。



可憐なカタクリの群生地

楢谷の巨樹群

